

通勤できそう!?
八丈島へGO!



△八丈島空港着。アサギクの送迎で宿へ



△アサギクで釣りの準備をして港へ



△チャーターした船に乗船



△島に着いて1時間20分。羽田空港から2時間半でアオダイキャッチ

INFORMATION

伊豆諸島 アサギク
八丈島 ☎04996・2・4111
(詳細は巻末の情報欄参照)

★船の予約と宿泊はもちろん、空港からの送迎、釣具、クーラーボックス、車の貸し出しから仕掛け、エサ販売まですべてお任せ! 色んなプランで八丈島を満喫させてくれます!
▶料金=チャーター船4名5時間まで5万6000円。1人追加8800円、延長1時間1万1000円。
▶備考=宿泊も2食付きで同時予約可能。ほか、お得なパッケージツアーあり。

▶必要なものはほとんどそろっています。事前に聞いておけばなお安心



△左から荒井さん、おかみの河合安子さん、菊池さん。釣り人をいつも笑顔で迎えてくれます

★夕方にかけてオナガの時が訪れた



★八丈富士を仰ぎ見ながらアオダイ狙い

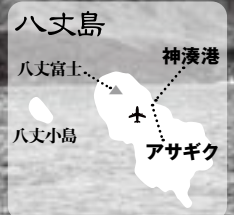
▲巨大なピラミッドのような八丈小島。以前、ここには村があった

「おれが若いとき、船でムロを釣りにくると、小島から運動会の音楽が聞こえてきたことがあるよ」
ほとんど巨大な垂壁に見える八丈小島。振り向いて八丈島を見てもなお、人が住んでいたとは信じられない。
川又康平さんと朝の羽田空港で待ち合わせ、アサギクで釣りの準備を済ませて神湊港から宇之丸に乗り、アオダイをひとしきり釣ってオナガ狙いは速潮で一時中断、昼過ぎからシマアジ五目でウメイロやムロを狙い、あわよく

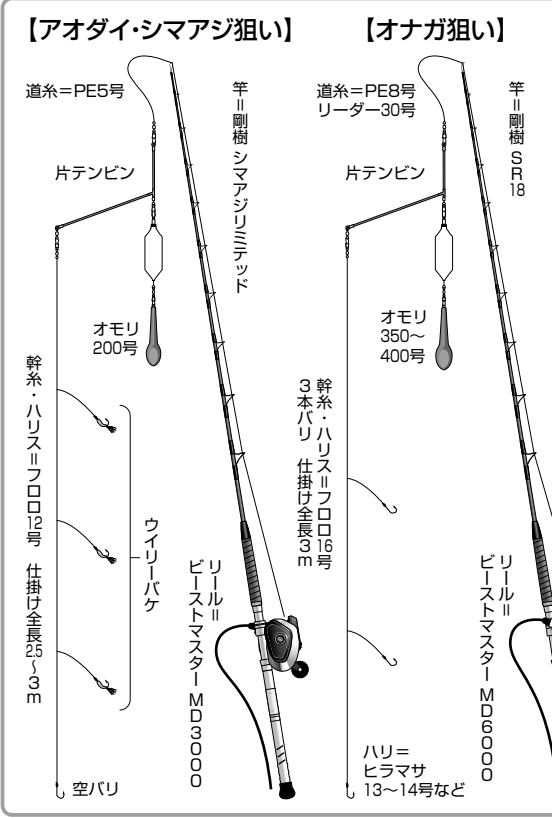
ば泳がせて大型魚を狙おうとやってきた八丈小島での話だ。
「おれが19歳のときかな。(小島から)みんな引き揚げたんだよね」
御歳73になる船長の19歳は、54年前そのころと比べ海は変わったのか聞くとうとしたとき、川又さんの竿が大きく引き込まれた。先ほど釣れたカンパチとは比べ物にならない強さだ。
「シマアジかもしれないよ」
年間60日は八丈島に通う川又さんの言葉に疑う余地はない。水深100メートル以上、仕掛けはハリス12号。道糸を出されては巻き、慎重にヤリトリするものの、潮流に乗った相手は逃げてしまった。
「仕方ないですね! 大きなシマアジだったと思うんだよなあ。沖藤さんにも食べてほしかったです」

冬旅のすすめ
釣りバカ
アイランド
八丈島
うま魚ツアー

◎写真/文
沖藤 武彦
(本誌発行人)



川又康平さんのタックル



怒涛のアオダイ

自身が経営する料理店「仙川 釣よし」でシマアジを出せたら……と悔しがる川又さんであった。
怒涛のアオダイ
それにしても、アオダイの食いは凄まじかった。10時前に八丈富士の下、水深20メートル前後の場所から釣り始めると1投目から釣れる。それもアオダイとしては大きめの1キロ級だ。
アオダイは非常に引きが強い魚で3キロ級のワラサに負けない。これが2尾、3尾と掛かると、仕掛けは12号でなくては切れてしまう。



▶アオダイ用の仕掛けはシマアジ仕様の12号
▼オナガ狙いはオキアミやエビ、イカ、サバなど付けエサを使う
釣り方は仕掛けを着底させたら、勢いよくハリス分誘って待ち、アタリがなければ再び誘うだけなのだが、オモリ200号なので筋トレ状態。

オナガの時がやってきた

「いつでも簡単なわけじゃないよ」
たしか一昨年も船長は言っていたけど、やはり今年も、そう思えないほどの釣れっぷりだった。
小島でのシマアジとおぼしきバラシの後、夕方にかけて港近くの浅場でアカハタを釣ろうと船を戻すと、突然、船長がオナガをやるうと言いだした。
昼前に一度狙ったものの潮が悪く諦めたのだが、帰路、潮が変わったと気づいたそう。
オナガ狙いは水深200メートルをオモリ350、または400号で狙う。相手は最大10キロを超える大物、速潮の中で着底あるいは海面からタナを取り、誘いを入れるのは大変だ。
昼前には2ノット以上だった潮は今は1ノット。道糸が立つと、ゴ、ゴゴ

ン! と明確なアタリが出た。
海面下に見える銀色の影が眩しい朱色に変わり、長い尾のハマダイ、通称オナガが海面に現れる。
次投も、その後も、オナガがアタっては上がる。そして圧巻だったのが強烈な食い上げアタリだった。
「大きいオナガほど、オモリを勢よく持ち上げるんです。合わせが効かないから、逃げられることが多いんですよえ」
このバラシを機に道糸は再び立たなくなり、沖揚がりとなる。
夕日を見て気づく。朝、都心でいて、日没までの間にこれほどせいたくなく釣りが堪能できるのは八丈島だけだろう。
いやはや、この魚影、圧巻である。



Go! Go! Go!